

■ 2019 夏・特別号 ■

—神戸・垂水の教育を考える座談会@桃中—



P
T
A
の
可
能
性

教
育
の
可
能
性

特別対談

神戸市会文教こども副委員長

岡田ゆうじ

元本多間中学校PTA会長

今関 明子

桃山台中学校校長

福本 靖

全国的な課題 「PTA問題」

岡田 共働き家庭が増える中で、保護者にとって過度な負担になりつつあるPTA。役員のなり手がなく、強制的にくじ引きで割り当てたり、学校がすべきことの下働きをさせられたり。現在PTAをめぐる状況は、全国的な議論になっています。

今関 私はそもそも、PTAが原因で、親がいやな思いをすることをなくしたいと考えていました。人気のないものなら、皆がやりたくなるものに変えたいなあ、と。



桃山台中学校校長
福本 靖

福本 「子どもの気持ち」が全ての出発点

福本 教師の多忙化により、本来すべきことも十分になされていない懸念がある一方で、子ども達に対するより丁寧な指導も求められている。子どもたちの個々の心まですっかりと配慮した指導が。しかし現場からするとこれは矛盾する話だ。子どもたちに丁寧に対処すればする程、多忙化は深刻化する。

これに対する答えは2つある。一つは、国を挙げて予算を確保すること。すなわち教員の数を増やしたりすること。それが出来ないのであれば、子どもが一番の理解者である保護者の皆さんに、学校経営に入ってもらいたい。

その際、「教員はこれだけやっているのだから、親御さんもこれぐらいしなさい」のように、対立構図のアプローチではいけない。今の保護者の方は皆とても忙しいけれども、昔の、僕らの親の世代と比べても、明らかに子どものことを大事に思っている。僕らの世代では、お父さんが三脚持って学校のイベントに来るなんてなかった。

今関 そういうPTAを「変えたい」「おかしい」と思っていたのが私で、異なる視点から福本先生も、何とかしないと、と考えていた。子を思う親の気持ちをしっかりと、

学校の運営に取り込もうということになると、PTAに「仕事を割り振る」ではなく、「一緒に仕事をす」になりました。

福本 今のお父さんお母さん、忙しくなっているけれども、子どもを想う気持ちは強い。その気持ちを上手く汲み取ることができれば、学校運営にしっかりとハマるんじゃないか。

それを求めることが、PTAを変えられることにつながった。これは、学力やいじめ問題など、学校が抱える全ての問題に影響するものです。

変わる子ども・変わらない学校

福本 ゼロにはなっていないが、神戸市だけでなく全国的な傾向として、タバコを吸ったり、暴力をふるったり、バイクに乗るなど、



先生が力づくで抑えなければならぬような、荒々しい非行少年は減った。今は子どもの問題は、ネットで悪さをしたり、むしろ内面的なものになってきた。「荒れる」の定義や価値観も変わってきた。時代と共に子どもが変わっているのに、しかし学校や先生は変わっていない。

岡田 今はスマホで子どもは勝手に世間とつながる。昔は学校を押さえておけば、子どものおよそ全てが分かったが、今の子どもは第二の社会、第三の社会を持っている。



神戸市会議員
文教子ども副委員長
岡田 ゆうじ

今関 「嫌なものは、私達の手でなくすか変える」

福本 今の子どもには世界がたくさんある。家だけじゃなくインターネットの仮想空間とか、友達も学校の友達だけじゃなくて、全然知らない子たちとつながっている。

そんな子どもを、まして自分が働いていて忙しいから、しっかりと見てやることもできない。だからPTAに立候補する、という流れになって欲しかった。

ぜい肉をそぎ落としたPTAは、そういう保護者にとっても良いのではないかと思います。

今関 今は家庭も多様化している。保護者は、むしろ役員を忙しくて出来ないことに、お母さん仲間に対して、我が子に対して、申し訳なさを感じる人もいる。

自分が子育てに迷った時に、相談する相手が欲しい。「信頼感」がある場、何でも話せる場。そういう場を欲している。

福本 子供と保護者が何を望んでいるかを知らなければならぬ。子供が喜んでくれてなんぼ。保護者の「かたまり」の意見がなければ学校運営は難しい。説明責任を果たす為にも必要。

偶然の産物でできた改革だが、これからの学校にはこれしかないという自信がある。本多間だけの成功にせず、ある程度標準化してほしいと思ひ、二人の経験を本にまとめた。

「衣食住」と「学」の重要性は同じ

岡田 今、今関さんは本多間小学校で学習支援のボランティア活動をされておられます。

今関 はい。是非岡田さんも、お知り合いの方に、木曜日の午後3時半からやっていますので、ご協力いただけるボランティアの方いいいか、広めていただければと思います。

福本 私は、本来これはボランティアではなく、教育施策として進め

るべきことだと考えます。

子ども食堂という、「衣食住」に関する子どもを支える取り組みは盛んに行なわれている。しかし、「衣食住」ではない「学」については、深刻さが伝わりにくい。

特に学力の面でしんどい子が、全く知らないおじいちゃんに身体をひつつけて、教えを請うている。例えば宿題で、ちゃんと全部読ん

だら親がマルを付ける、といううなものがあるが、それすらできない。でも子どもは、それをしたい。

だから、全く知らない人だけど、自分の読み上げを聞いてくれるボランティアさんに、信頼を寄せる。小学校低学年の学習支援は、学習の中心というよりは、人間的なつながりを求めているのではないかと思います。

今、ボランティアベースで、今関さんが一生懸命集めて来たボランティアさんたちにやっていただいてるが、ボランティアには限界がある。

神戸発



垂水発

学校への信頼が高まり、苦情が大幅に減った本多間中のPTA改革。「教員の多忙化対策」と「生徒、保護者への丁寧な対応」を同時に達成する処方箋「本多間式」改革は、全国に波及しつつあります。お2人は『子どものため』という視点さえあれば、どこでも実現できる。あとは校長の理解と共感してくれる仲間、それに勢いと語る。そんなお2人の改革への取り組みをまとめた書籍「PTAのトリセツ」(世論社)。151頁、税別1千円。



この学習支援をしつかり展開できるかどうか、子どもたちの将来に関わってくる。

今関 中学生になってからの学習支援では、遡るところが多すぎる。学校の定期テストの範囲はもつと進んでいて、遡って復習しても結果になかなか反映されず、夏が過ぎるとやる気を失う。

小学生の、無邪気に遊んでいる時間の、ほんの一部分を学習時間にして支援すれば、中学生になった時に全然違う。

福本 学習支援ボランティアには、特に資格を求めない方がいい。教員免許など無くてもかまわない。本当



に簡単な内容。大事なことは、子どもたちのそばに、いてあげることだ。

今関 他の市のお母さんから、神戸市には「学習支援ツール」があつて良いね、と言われる。

無料で利用できる学習支援ツールがあり、学校には教室もあり、あとは寄りそってくれる人さえいれば、勉強がわからなくなる子を救うことができる。

福本 神戸市教育委員会の施策として、既に「学ぶ力・生きる力向上支援員」というのがあり、時給二千元程度の予算措置と共に全小中学校に配置されている。

公式にそういう役割を負って下さっている方もおられるのだが、今、各学校で対応がバラついている。

今関 どうしてもボランティアアベースでは地域ごとで差が出てしまい、保護者からは住んだところで差がある、損だ、というクレームが出てしまう。

岡田 福本先生の、「衣食住」と同じだけ「学」にも注力を、という言葉は胸に残った。

子どもたちは小さい頃から、「僕は頭が悪いから」「僕は簡単な勉強もできない」というコンプレックスを抱えて生きて行かなければならなくなってしまう。

それは、衣食住が足りないということと同等、ややもすればそれ以上の深刻な影響を、子どもたちに与えかねない。

議会で更に取り組んで参りたい。



▶ボランティア書記をしてくれた

桃山台中学校卒業生保護者Oさんの感想

私からみた学校は、先生方はとても忙しそうで、言いたい事、聞きたい事があつても、諦め黙って過ごしてきました。いじめの問題も一母親として、まだすつきりしません。

しかし、福本校長や今関さんのような、エネルギーがシユで、本気で子供達の為に学校を変えていこうと試み、活動・実施される方と保護者が身近に意見交換できる場があるというのは素晴らしい事だと思います。

さらに岡田議員の行動力・実行力も加わり、子供達の教育現場もますますよくなると期待しています。

【岡田ゆうじプロフィール】

- 1978年6月25日生まれ
- 慶應義塾大学法学部卒
- 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了
- 国会議員政策担当秘書資格試験に合格
- 参議院議員末松信介政策担当秘書
- 2017年選挙にて27,279票を得て初当選（現在2期目）
- 2019年6月より神戸市会文教子ども委員会副委員長



教育の再生、子どもたちの学力向上に全力！

神戸市会議員 垂水区 岡田ゆうじ 事務所 〒655-0044 神戸市垂水区舞子坂3-18-20 TEL: 090-9107-0622 / FAX: 078-785-5172

岡田ゆうじ
ホームページ
mail@okadayu.ji.net
www.okadayu.ji.net

